

4 学校アクションプラン

平成30年度 上市高等学校アクションプラン 年度末評価 — 1 —	
① 重点項目	学習活動
② 重点課題	教科指導の充実
③ 現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・授業検討会を適宜実施して、生活実態調査結果の分析などを通して、生徒理解を深めるとともに、教科の指導法や評価法等を検討している。 ・各教科で学習の内容、方法、評価の仕方等を記載したシラバスを生徒に配布している。しかし、生徒は分野・科目選択の資料として利用しているが、学習設計の指針として、十分に活用するに至っていない。
④ 達成目標	積極的に互見授業を行い、授業改善の充実にを図る。
⑤ 方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期と2学期に互見授業期間（2週間）を設定し、各学期1人2回以上の互見授業を行う。その後各教科で授業検討会を実施し研修する。 ・教科指導力の改善を目指す授業検討会を開き、効果的な指導法や生徒の学習成果を測る評価法を検討する。（継続） ・「主体的・対話的で深い学び」いわゆるアクティブ・ラーニングの視点からの授業改善を充実させる。 ・教科指導はシラバスに基づき実施する。その際に、授業と家庭学習（週末課題や宿題の質と量に配慮）の内容を明確に位置づける。 ・授業に対する生徒アンケート集計結果を基に、授業改善結果を知る。更に今後の教科指導法の工夫に役立てる。
⑥ 達成度	現状のまま。
⑦ 具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科の互見授業実施回数 1学期 国語 3 地歴公民 1 数学 8 理科 4 保体 0 芸術 7 英語 4 家庭 5 農業 2 商業 7 計 41回 (53%) 2学期 国語 0 地歴公民 2 数学 9 理科 0 保体 6 芸術 4 英語 7 家庭 4 農業 3 商業 8 計 43回 (55%) ・授業検討会で協議された内容（1学期、2学期集計分） 全教科共通：年間指導計画、授業進捗の確認、シラバス、分野選択の問題点 次年度の教科書採択、H31年度教育課程の検討 学校設定科目の設置、互見授業（アクティブ・ラーニング）について 個別教科：主権者教育について（地歴・公民）、数学検定を利用した指導法（数学） 「生活理科」の学習内容、指導形態について（理科）、 発達障害のある生徒の授業内容と評価（保体） 英検を利用した指導法（英語） 授業2時間続きについて（農業） 資格取得の取組み・検定結果の分析（家庭、農業、商業） 授業改善結果（3月末に検討） ・初任者研究授業および事後研修の実施（英語 H30 9/28・保健体育 H30 9/28）
⑧ 評 価	C
⑨ 学校評議員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導について、生徒へのアンケートで、授業について「面白い」、「興味ある」などの項目を設ければ良い。アクティブ・ラーニングの手がかりになり、授業改善に役立つと考えられる。 ・生徒へのアンケートの内容が大切である。少数意見の中に光るものがある。記述式も取り入れて欲しい。
⑩ 次年度以降に向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・互見授業の充実にを図る。互見授業期間を設けて2年半の経過であり、まだまだ意欲的な定着に繋がっていないので、各学期1人2回の互見授業を義務づける。 ・授業検討会の充実にを図る。1・2学期には互見授業期間を踏まえての具体的な指導法や改善方法の報告を求める。3学期にはアンケート集計結果を基に、授業改善結果の報告と今後の方針を求める。 ・学習生活実態調査（5月）と授業アンケート（12月）の内容を精査・改善し、その集計結果が各教科の授業改善結果となっているか判断できるものにする。 ・ICT機器の活用技法も積極的に習得を広めていくよう研修会を企画する。

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状のまま D：後退した)